事例報告１

小田原城跡八幡山遺構群

(公財)かながわ考古学財団　調査研究部
調査課　　宮坂淳一

１．後北条氏と小田原城

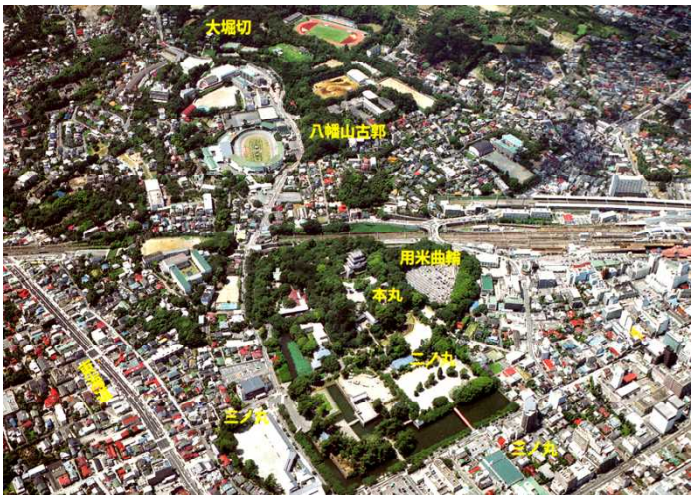
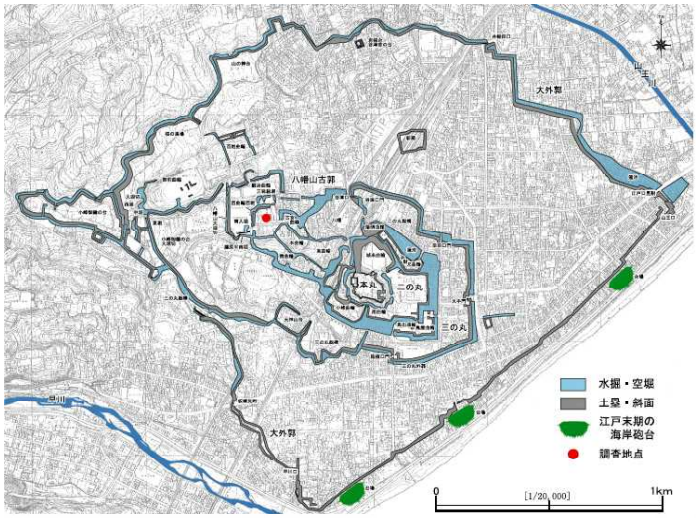


写真１　小田原城跡全景

小田原城が築かれたのは、大森氏が小田原地方に進出した15世紀初めごろと考えられている。その正確な位置や規模については不明だが、八幡山丘陵中腹の神奈川県立小田原高等学校の周辺にあったと推定されている。明応５年(1496)頃、伊勢宗端(北条早雲)が大森藤頼を陥れ、小田原城を手中に収めて以降、２代北条氏綱～５代氏直までの約100年間、小田原北条氏の本城として強化・拡大を続けて行った。北条早雲が入城した段階では城域は八幡山周辺に限られるものであったと推定され、永禄４年(1561)に長尾景虎(上杉謙信)、永禄12年(1569)には武田信玄の来攻を受け、新たに三の丸新堀の普請に着手したとされている。そして、天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、全周が約９Kmに及ぶ総構が城と城下町を完全に包み込むまで巨大化していった。近年の発掘調査で、低地部では後北条時代の堀や土塁は明確になっておらず、後北条氏の重臣の居館が造られていたことが明らかになっている。小田原北条氏の滅亡後、八幡山を中心とする山地部は「御留山」となり、立ち入りが禁じられた。このため、地下に中世末期の小田原城の遺構が保存されることとなった。小田原の地は、新たに徳川家康の三河以来の家臣大久保忠世が城主となり、その子忠隣の代の慶長19年(1614)に改易され、小田原城は破却された。寛永９年(1632)には稲葉正勝(３代将軍徳川家光の乳母の春日局の息子)が城主となり、本格的な近世化工事が開始される。この工事により、小田原城は範囲を平地部の三の丸以内に縮小されていき、二の丸以内は大手筋を中心に石垣が築かれていった。これらが現在の小田原城の城跡公園一帯で見られる遺構の原型となっている。その後は、



第１図　小田原城城域と調査地点

元禄16(1703)年、天明２年(1782)、嘉永６年(1853)に大規模な地震による被害を受けるが、幕府官金により修理が行われ、他は大きく変更を加える事はなく、明治３年(1870)に廃城となった。小田原城とその城下の発掘調査は、二の丸や三の丸を中心として数多く実施され、小田原城の古絵図等に記されていない堀跡の発見、その他多くの遺構の発見により、城下町としての小田原の姿が徐々に説き明かされていった。発掘調査の増加にともない、15世紀から19世紀までの出土遺物が蓄積され、それをもとに、陶磁器を中心とした小田原編年が組まれ、遺構の造られた年代の解明がなされていった。

２．小田原編年の概要

小田原編年は出土した陶磁器を中心として、15世紀に始まるⅠ期から、19世紀後半に至るⅦ期までに分類される。以下、小田原編年の概要となる。

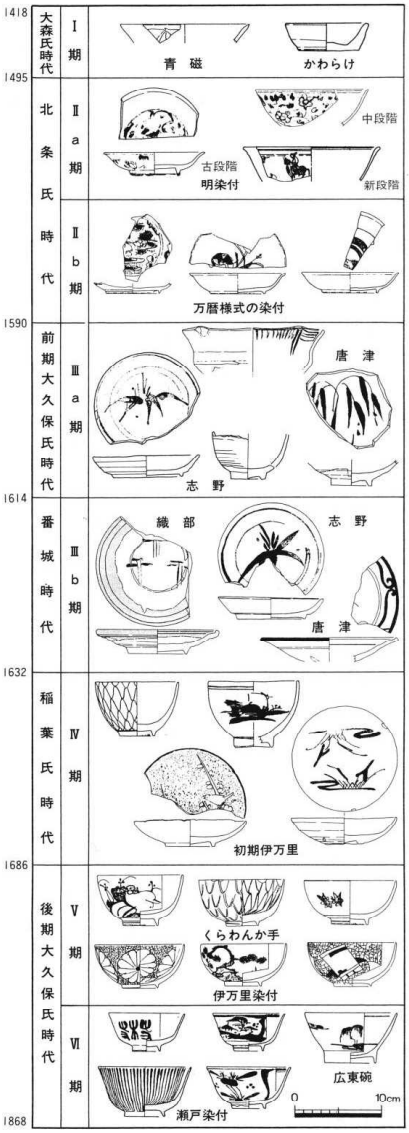
Ⅰ期：15世紀初頭から15世紀末の大森氏の時代にあたる。この時期の遺構は少なく、陶磁器も青磁やかわらけなど出土数も非常に少ない時期である。

Ⅱ期：15世紀末から16世紀末の小田原北条氏の時代にあたる。出土陶磁器としては、青磁・白磁・染付の碗皿などの中国製陶磁器、瀬戸・美濃の灰釉皿、鉄釉皿、天目茶碗、擂鉢、常滑の甕、在地系のかわらけで構成される。天正期(1573～1592)を境にⅡａ期とⅡｂ期に細分される。

Ⅲ期：16世紀末から17世紀前葉にあたり、天正18年以降慶長19年(1590～1614) までの前期大久保氏時代に相当するⅢａ期、元和年間から寛永10年代(1615～1630)までの時期で小田原城の番城時代に相当するⅢｂ期に分けられる。出土陶磁器では、唐津・志野・織部等の陶器の出現する時期に相当する。

Ⅳ期：17世紀中葉から17世紀末で、稲葉氏の時代に相当する。陶磁器では、伊万里磁器の出現を画期としている。

Ⅴ期：17世紀末から18世紀末に相当し、後期大久保氏時代の前半にあたる。伊万里磁器の雑器である、「くらわんか手」の出現を画期としている。



第１表　小田原編年

Ⅵ期：19世紀初頭から19世紀後半に相当し、後期大久保氏時代の後半にあたる。この時代は、瀬戸製の磁器が出土することに始まり、印版染付が出現したことで終了する。

Ⅶ期：明治10年代から大正初期までに相当し、型紙摺・銅版摺の出現をもって画期とする。

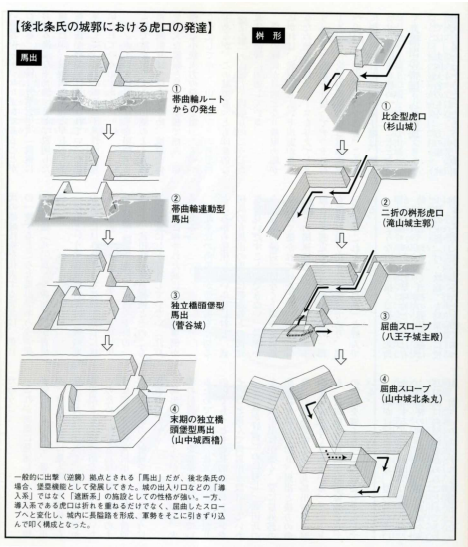
３．城の構造

城地の選定後、縄張りとして地形に応じ曲輪（くるわ）等を配置して本丸・二の丸・三の丸等を設ける。縄張りには、以下のような工夫の工夫がされた。

虎口（こぐち）：城の出入り口本来は口を小さく開けることを原則とした。「小口」と記したが次第に「虎口」の字を当てるようになった。攻撃に対する防御、城兵の突出等を配慮し構築された。

馬出（うまだし）：虎口前方に小さな曲輪を造り、この曲輪にいったん入城させてから虎口に入らせる場所。

桝形（ますがた）：虎口内外の方形の一区画で、ここで敵兵を周囲から攻撃する。



第２図　虎口の変遷

横矢掛（よこやがけ）：側面防備の方法で、城壁に屈曲を設け桝形とからめて構築する。隅が出張って側面からの攻撃、防御に適している。

土塁（どるい）：堀を掘り、その土を盛り上げて壁としたもの。

障子堀（しょうじぼり）：堀内に障子の桟状に設けた堀。後北条氏特有の形態。

４．小田原城跡八幡山遺構群の調査

小田原城跡八幡山遺構群は、過去に発掘調査と試掘調査が実施された。概要は以下の通り。

① 体育館建設に伴う調査（第１次調査）

昭和55年（1980）４月７日～４月26日、神奈川県立埋蔵文化財センターが実施した。八幡山大堀切（おおほりきり）・道状遺構・土坑・硬化面、古墳時代の住居が発見された。

② 部室改築に伴う調査

平成２年（1990）６月５日～７月７日、民間調査団が実施した。古墳時代の住居・道状遺構・硬化面が発見された。

③ 防球ネット移設及び新設工事、設置工事に伴う試掘調査

平成８年（1996）６月24日に神奈川県教育委員会が実施した。遺構・遺物は共に発見されなかった。

④ プール棟改築工事に伴う試掘調査

平成９年（1997）７月17・18日、神奈川県教育委員会が実施した。堀と思われる落ち込み、住居跡・柱穴、縄文時代の土器・石器等が発見された。

⑤ 校舎建替工事に伴う試掘調査

平成12年（2000）７月３・４・19日、神奈川県教育委員会が実施した。八幡山大堀切、住居跡・掘立柱建物・柱穴が発見された。

⑥ 擁壁改修工事に伴う工事中立会

平成14年（2002）２月13・15日、３月25・26日～９月15日、神奈川県教育委員会が実施した。

西曲輪北堀（にしぐるわきたぼり）の東端部の断面が確認された。

⑦ 校舎建替工事に伴う調査（第２次調査）

平成14年（2002）１月29日～９月15日、かながわ考古学財団が実施した。中世～近世の遺構として、堀跡４ヶ所・井戸跡３ヶ所・土坑１基・ピット26基が発見された。遺物は、陶磁器・石製品・鉄製品・瓦が出土した。藤原平（ふじわらだいら）の南入堀（みなみいりぼり）では、コの字形に囲うように配置された堀跡と虎口が発見された。

⑧ 校舎建替工事に伴う調査（第３次調査）

平成17年（2005）８月１日～12月28日、かながわ考古学財団が実施した。中世～近世の遺構としては、堀跡１ヶ所・土坑14基・礫集石１ヶ所・ピット20基が発見された。遺物は、戦国期の舶載（はくさい）（中国製）の染付磁器や白磁・瀬戸大窯期陶器（せとおおがまき）等が出土した。調査により曲輪内様相や堀跡の一部が発見されている。また、築城時の造作で、旧地形が大きく改変されていることが判明した。

⑨ 整備工事に伴う調査（第４・５次調査）

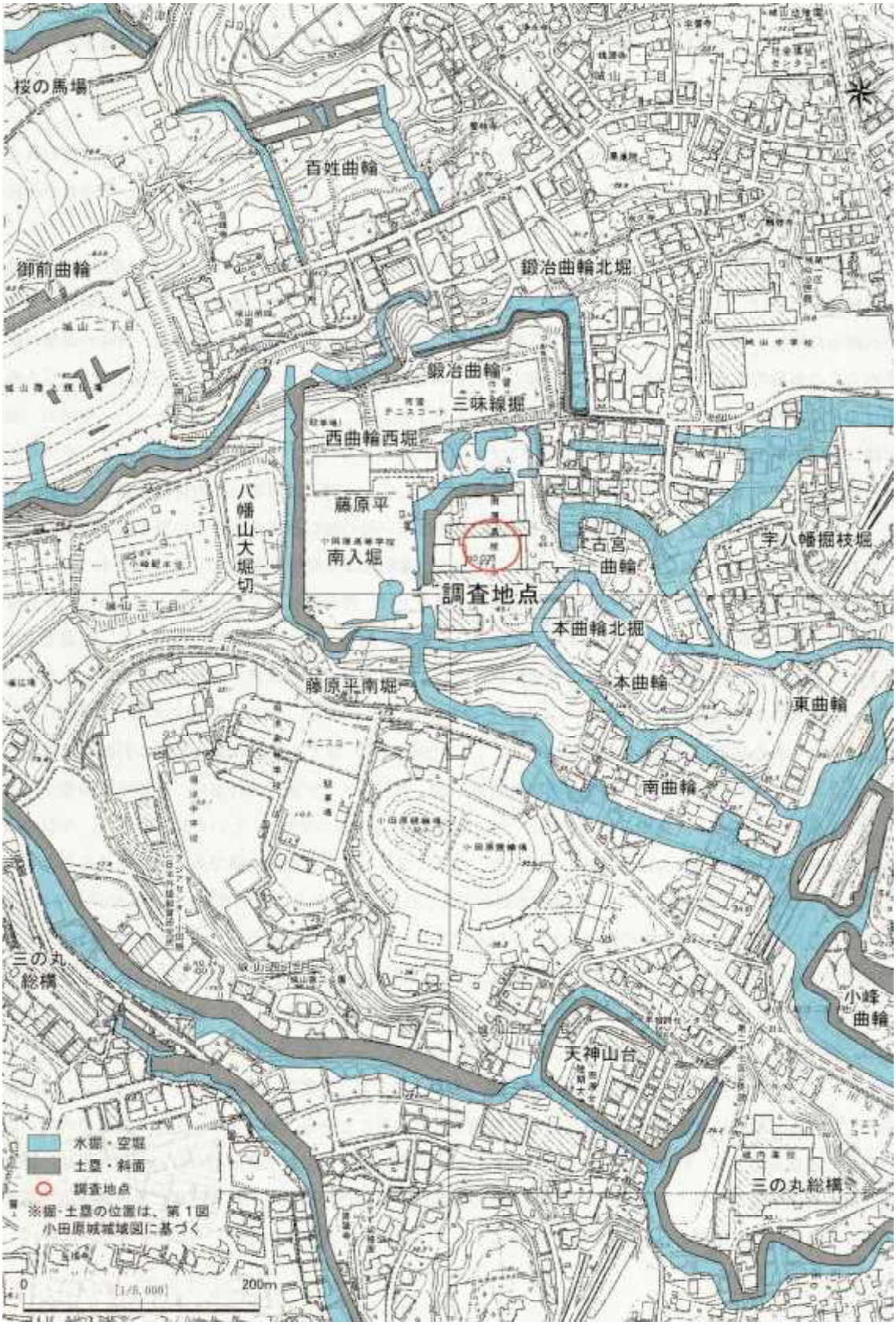
平成20年（2008）５月19日～10月15日、平成21年（2009）６月１日～７月15日にかながわ考古学財団が実施した。中世～近世の遺構として、堀跡３ヶ所・土塁状遺構１ヶ所・溝状遺構１条・石組遺構１ヶ所・土坑５基・ピット11基が発見されている。遺物は、かわらけ・陶磁器類・木製品が出土している。絵図面に描かれている西曲輪西堀（にしぐるわにしぼり）・三味線堀（しやみせんぼり）・本曲輪北堀（ほんぐるわきたぼり）が発見されている。また、近代になり障子堀（しようじぼり）を一部改変した石組みの池状遺構が発見されている。

写真２　古絵図に描かれた八幡山遺構群

※　『小田原市史 別編城郭』（1997年 小田原市刊）より引用・一部改変

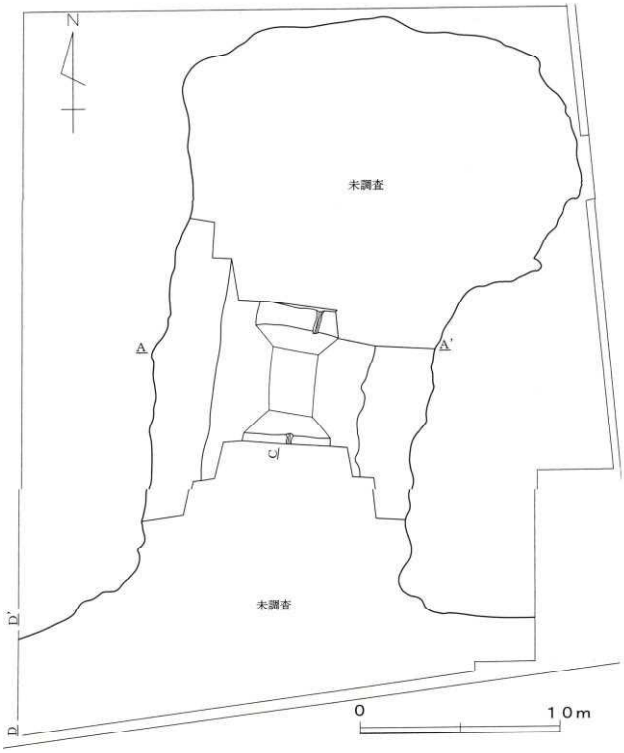
〔引用・参考文献〕

大上周三 2004「小田原城跡八幡山遺構群Ⅱ」『かながわ考古学財団調査報告』161
小笠原清・田代道彌 他 1995「小田原城」『歴史群像名城シリーズ』８ 学習研究社
小笠原清 他 1995『小田原市史 別編 城郭』小田原市
小田原市教育員会 1990『小田原城とその城下』小田原市
かながわ考古学財団 2010『掘り進められた神奈川の遺跡 旧石器から近代まで』
河野喜映 1984「小田原城跡八幡山遺構群」『神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告』５
諏訪間順・佐々木健策・山本篤志 2012『戦国最大の城郭 小田原城』小田原城天守閣
諏訪間順・佐々木健策 2013『よみがえる小田原城 史跡整備30年の歩み』小田原城天守閣
田代道彌 他 1980「小田原城」『日本城郭体系 千葉・神奈川の城郭』６ 新人物往来社
吉田智哉 2004「小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ（第４・５次調査）」『かながわ考古学財団調査報告』254
依田亮一 2006「小田原城跡八幡山遺構群Ⅲ（第３次調査）」『かながわ考古学財団調査報告』201

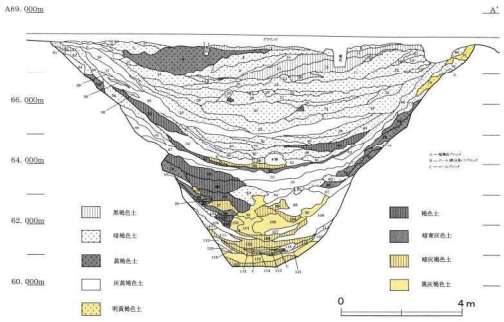

桜の馬場
百姓曲輪
御前曲輪
鍛冶曲輪北堀
鍛冶曲輪
三味線堀
西曲輪西堀
八幡山大堀切
藤原平
南入堀
調査地点
古宮曲輪
字八幡掘枝堀
本曲輪北堀
藤原平南堀
本曲輪
東曲輪
南曲輪
三の丸総構
小峰曲輪
天神山台
三の丸総構
水堀・空堀
土塁・斜面
調査地点
※堀・土塁の位置は、第1図
小田原城城域図に基づく
0
200m

第３図　調査地点

第４図　遺構配置図

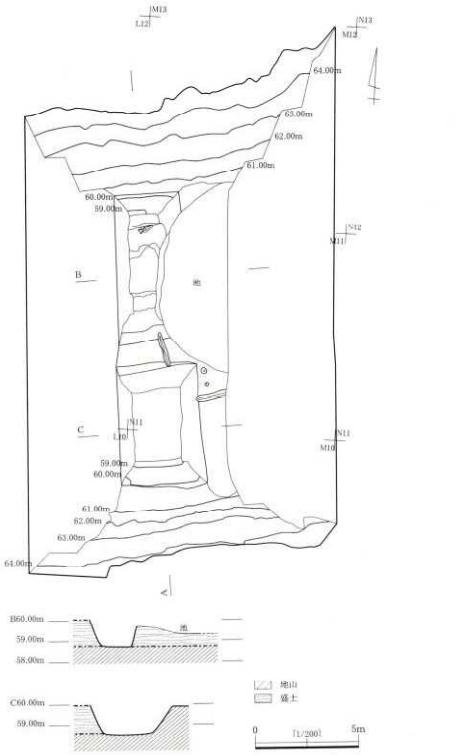


第５図　南入堀平面図

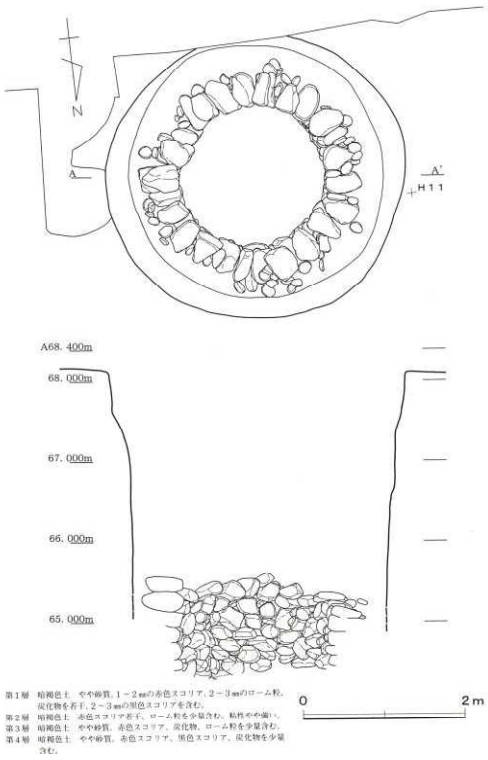


第６図　南入堀断面図

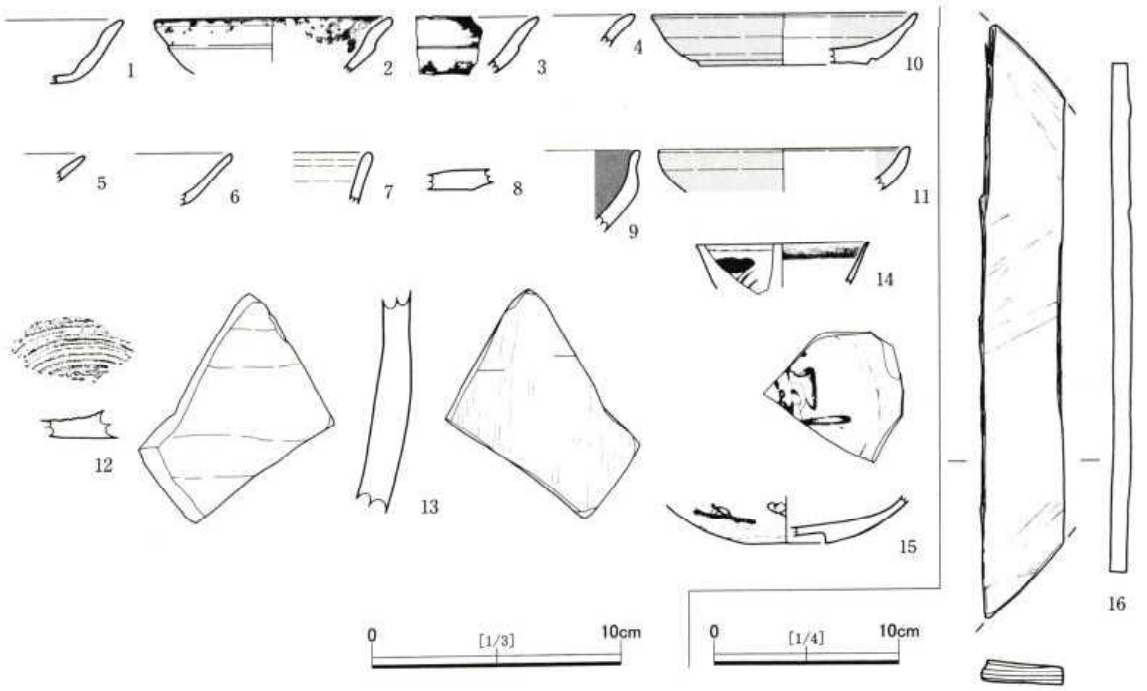
写真２　南入堀断面



第７図　西曲輪西堀平面図・断面図



第８図　１号井戸平面図・断面図



第９図　西曲輪西堀出土遺物

１～８　かわらけ、９　瀬戸美濃天目茶碗、10・11　志野丸皿、12　瀬戸美濃擂鉢、13　常滑研磨陶片、14　瀬戸美濃染付端反小碗、15　舶載(中国)染付皿、16　木製桶底板

写真３　小田原尉跡八幡山遺構群遠景

写真４　南入堀

写真５　南入堀出土遺物

写真６　西曲輪西堀

写真７　池状遺構

写真８　西曲輪西堀調査状況

写真９　１号井戸遺物出土状況

写真10　１号井戸